

# 福井県立大学におけるFDへの取組み － FDの **Next Step** を考える－

菊沢 正裕

福井県立大学(学術教養センター)  
教育・学習支援チーム(FD担当リーダー)

仁愛女子短期大学 July 18, 2007

## ● Contents

- ① FDの背景、目的、方法
- ② FDのメリット
- ③ 福井県立大学におけるFDへの取組
- ④ FDを進めるにあたってのポイント
- ⑤ **Next Step**にむけて


## **FDが必要になった 社会的背景**

3

## **工業時代の高等教育**

- ✓ **均質な教育(一定時間に一定内容)**
- ✓ **不得意科目の克服(60点以上が目標)**
- ✓ **化学の研究者は、  
そのまま化学の教育者**

4



**適当な教育でも  
なんとかなった！**

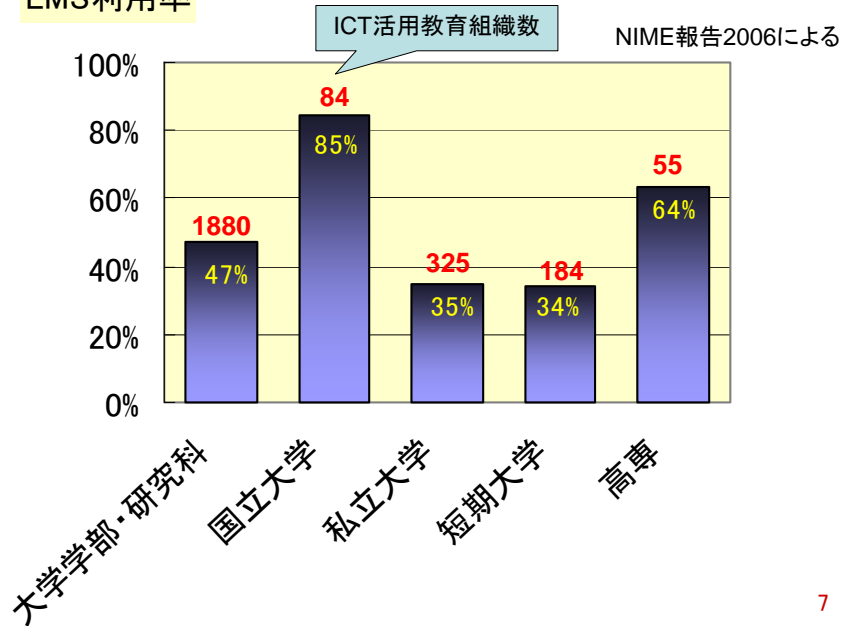
5

## 21世紀に入って

- ✓ 知識の宝庫インターネットが普及
- ✓ 情報検索でなんでも見つかる時代
- ✓ EラーニングツールLMSの普及
- ✓ 教育から学習へ
- ✓ 均質な教育から、個人の能力開発へ
- ✓ おまけに日本の大学は全入時代に突入

6

### LMS利用率



7

## 情報時代の高等教育

- ✓ 学習者ごとに、明確な目標と成熟を確認
- ✓ 学習環境のカスタマイズ
- ✓ 学習履歴の蓄積(eポートフォリオ)
- ✓ 協調学習・遠隔教育
- ✓ 社会と関わりをもたせた学習

8

## ① FDの目的

### ■ FDは本来、教員とスタッフの能力開発（海外）

- ・本来、教育と研究の教授能力の開発
- ・職員との協力関係を強化（SD）

### ■ 授業改善（日本）

- ・下位学生の学習状況の把握と教員の教育改善（底上げ）
- ・上位学生への対応と、より有効な教授法の開発（さらに良く）

9

## ① FDの方法

### ■ 3種の神器：公開、授業評価、研修

- ・短期的授業改善（個々のコースの改善）
- ・中長期的教育改善（データの蓄積・分析）

- ✓どんなカリキュラムにするか
- ✓どんな学生をとるか
- ✓大学のポリシー、経営ビジョン

10

## ② FDのメリット

### ■ 授業が楽しくなる

学生の目線で授業する→学生の反応に敏感になる  
→学生の反応が良くなる

### ■ 授業が楽になる

- ・授業のノウハウ会得
- ・交流会で授業の悩みを解消
- ・全学的取組み：教室環境の改善やIT導入の促進

11

## ② FDのメリット(続)

### ■ 学部を超えた交流の機会が増える効果

- ・他学部の先生の授業を取り入れる
- ・教育の悩みのついでに研究の悩みも解消
- ・共同研究が始まる

### ■ 研究に集中するようになる？

- ・ただだ探点解消、夏休や春休に集中して研究
- ・教育と研究のメリハリをつける

12

### ③福井県立大学におけるFDへの取組み

#### 0. FDの体制

##### 1. 授業評価

##### 2. 授業公開

##### 3. 研 修

13

#### 0. FD体制

##### ■2002 教務委員会にFDワーキング設置

##### ■2003 第1期FD部会

教務委員会の専門部会として設置

部会長 経済学部長

##### ■2005 第2期FD部会

部会長 情報センター長

##### ■2007 教育・学習支援チーム

チーム長 教育担当理事

チームリーダー FD担当&教育の情報化担当

14

## 1. 授業評価 基本的考え方

- **実施期間** 原則補講期間前の2週間
- **回答票** 選択4件法, 無記名
- **教員評価には使わない**
- **原則参加, 不参加は理由を提出**
- **全体集計の公開コメントを公開 (全員)**
- **個別結果の公開 (有志)**

15

## 1. 授業評価 方法の改善

- **2003-2005前期**
  - ・設問内容を各部局の教授会と教務委員会に諮りながら改善
  - ・シラバス改革, JABEEに關係して毎学期大きく設問を変えている

16



## 1. 授業評価 方法の改善(続)

### ■ 2005前期

- ・設問数と質問内容を確定
- ・事務処理の効率化を図る
  - ✓ アンケート用紙の袋詰めの効率化
  - ✓ 自由記述の画像処理によりメール配信
- ・結果の処理期間を2週間に短縮

17

## 1. 授業評価 方法の改善(続)

### ■ 2006後期 オムニバス授業への対応

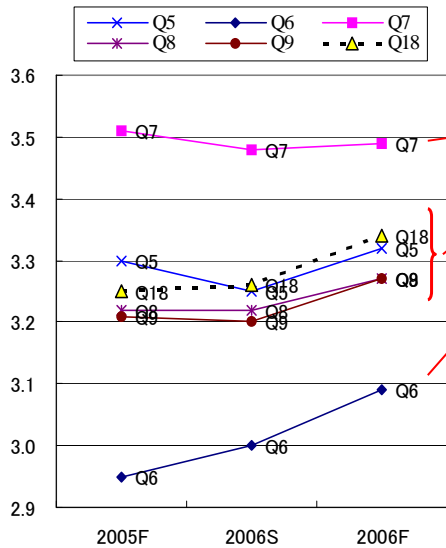
- ・1授業につき, 10回(又は10名)の授業評価可能

### ■ その他

- ・ケータイによる授業評価システムの研究
- ・CMS (eラーニング) による授業評価の併用など

18

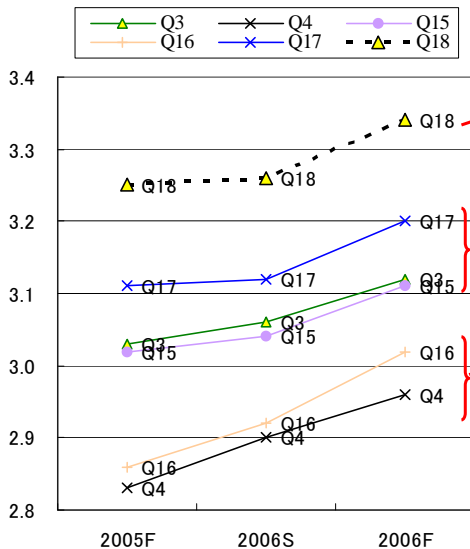
## 教員に係わる授業評価の設問分析



- Q7公平性は高く変化に乏しい
- Q5積極性, Q8速度, Q9方法は類似. Q18総合に近い
- Q6の質問のし易さは, Q4の質問したか, と類似傾向
- 教員態様に関しては, 方法だけで凡そ評価できる

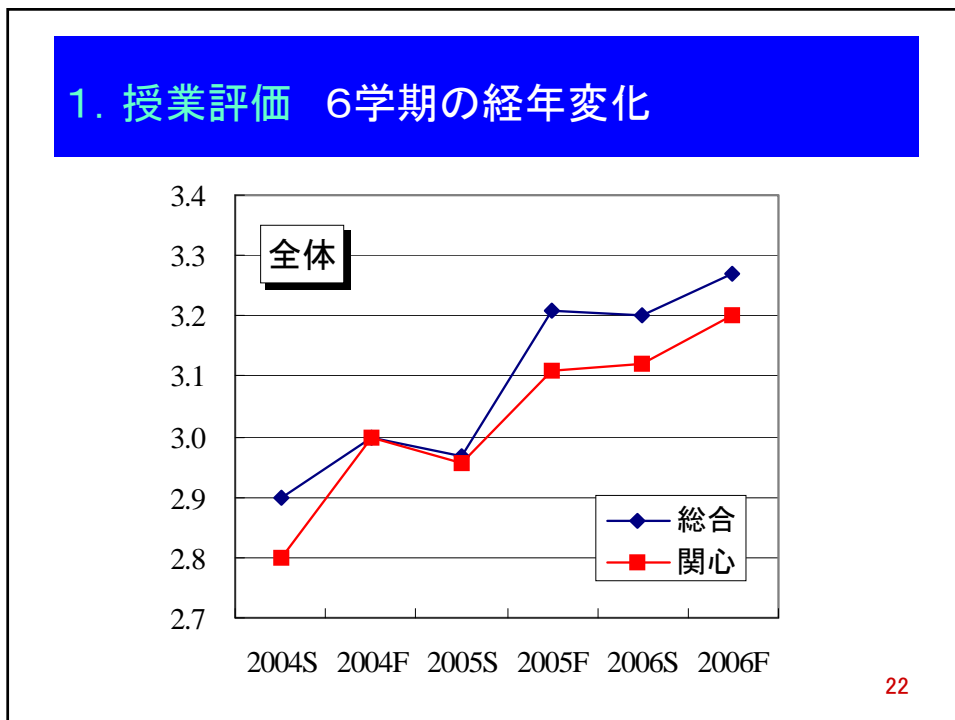
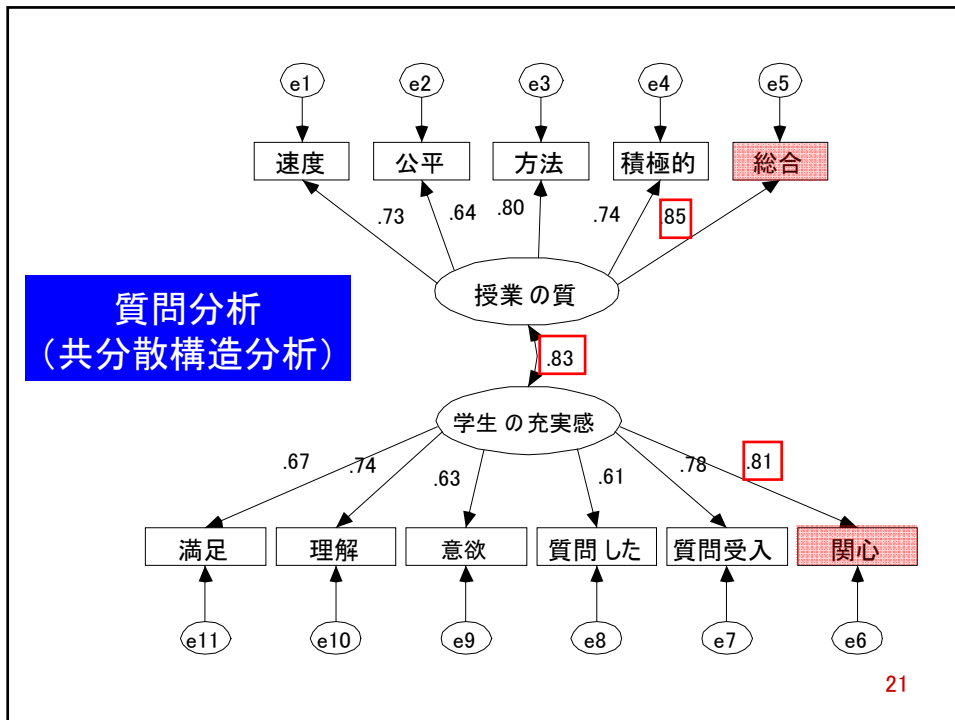
19

## 学生に係わる授業評価の設問分析

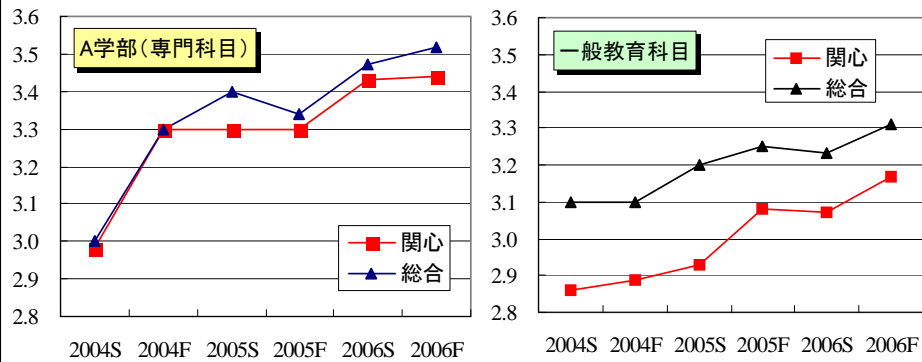


- Q18総合評価は授業内容や教員の態様に影響され, 自分自身への評価に比べて高い.
- Q3意欲的に取り組んだか, Q15理解できたか, Q17関心が高まったかは類似傾向
- Q4質問したか, Q16学力到達度に満足したかは, 類似
- 関心だけで学生の態様は凡そ把握できる.

20



## 1. 授業評価 部局別経年変化



もともと関心が高い看護福祉では、ほぼ上がりきっている

関心が低い一般教育でも、授業改善に伴い関心が向上

23

## 1. 授業評価 Next Step

- **データの分析**
  - ・ 学習動向の把握、カリキュラム改善
- **現行アンケートの質問数を減らす**
- **CMSを併用**
  - ・ 教員独自の質問
  - ・ 学期半ば・複数回実施（授業へのフィードバック）

24

## 2. 授業公開 基本的考え方

- **モデルとしない**
  - ・ **なので「公開授業」ではない**
- **外部参観や教員評価の対象にしない**
  - ・ **なので「授業参観」ではない**
- **モデルに学ぶではなく、互いに学ぶ**
- **原則1週間の公開期間を設ける**

25

## 2. 授業公開 推移

- **2004後期, 2005前期**
  - ・ **学期に1教員 (FD委員) が公開**
- **2005後期, 2006前期**
  - ・ **公募 13件, 16件が公開**
  - ・ **同一教員の参観が多く, 2006年後期は参観者が減る**
- **2006後期, 2007前期**
  - ・ **部局単位で公開を企画, 参観者を増やした**

26

## 2. 授業公開 得たもの

- 授業方法（配布資料、機器の利用）、教授作法（声の大きさや板書）、構成（流れやまとめ方）など参考になった
- ちょっとした授業のノウハウを獲得した
- 授業者では気づかない学生の様子を指摘された
- 参観を意識、授業を工夫する機会となった
- 検討会による教員間の交流

27

## 2. 授業公開 Next Step

- 共通科目（導入ゼミなど）で検討会をする
- 公開授業期間（あるいは学期中）いつでも参観できる体制をつくる
- 教育方法を議論する場を常設する

28

### 3. 研修 基本的考え方

#### ■ 学内ワークショップやセミナー

- ・ 授業ノウハウや新しい知識を学ぶ
- ・ 授業設計の方法, 著作権の扱い, 話し方など

#### ■ 学外研修

- ・ FD関連フォーラムやFDシンポジウムへの参加
- ・ 他大学の様子は刺激的

29

### 3. 研修 推移

#### ■ 2004

- ・ FD委員の先進地域視察, 学内での講演会

#### ■ 2005

- ・ 学内ワークショップ (FD部会企画4回)
- ・ FDフォーラムやFDシンポに参加 (FD委員中心)

#### ■ 2006

- ・ 学内ワークショップ (各部局で企画5回)
- ・ FD委員以外も学外のFD関連会議に参加

30

### 3. 研修 Next Step

#### ■学外研修

- ・FD以外の教員のFD関連会議への参加
- ・授業設計や著作権などNIME研修への参加

#### ■学内研修体制

- ・教育関連の学内研鑽の場をつくる
- ・教材作成支援体制（研修・サポート）

31

### ④ FDを進めるにあたってのポイント

#### 1. ステップバイステップで進める

#### 2. トップダウンとボトムアップ

- ・授業評価 原則参加、設問内容を各教授会、教務委員会に諮りながら改善するなど

#### 3. FDに関する情報を可能な限り提供

- ・イベント案内、資料、参加者の声等をウェブで提供、年1回は冊子で提供
- ・参加者の感想などFDのメリットを紹介しながら事業への参加を促す

32



## ④ FDを進めるにあたってのポイント(続)

### 4. 「自信满满」や「不安」の解消

- 授業公開やワークショップ時での教員の交流が効果的

### 5. 教育・学習の支援体制

- 授業設計のノウハウの勉強会
- 教材作成の支援体制
- 学習支援体制
- 学生と教員の交流会

33

## ⑤ Next Step にむけて

### ■ FDコミュニティの形成

- 共通講義に関する改善議論
  - ✓ シラバスの書き方、授業計画、授業運営についての議論と改善
- 教育方法全般に関する議論
  - ✓ 教育関連学会に報告など研究と関連させる
- 蓄積されたデータの分析
  - ✓ 分析結果をカリキュラムへ反映させる
  - ✓ 学生能力の把握、入試方法、教材作成支援

### ■ 教育の情報化との連動

34

**福井県立大学サイト [www.fpu.ac.jp](http://www.fpu.ac.jp)**

**福井県立大学トップページ**

**→大学への取り組み**

**→ファカルティ・ディベロップメント**

35



**ご清聴有難うございました**

36